

| | | | | | |
|-----|-----------------|------|--------|------|-----|
| 科目 | 経営組織論 | 担当 | 秋山 健太郎 | 履修学年 | 2年 |
| 時間数 | 90分×時限×16回(週1回) | 履修区分 | 選択 | 単位数 | 2単位 |

【授業目標・到達目標】

近年、企業の競争環境においては、戦略行動、イノベーションに組織が及ぼす影響が極めて大きい。そこで本講義では、経営組織論の基礎概念を習得することを目標とする。また、現状と将来における課題を整理し、まとめる力を身につけることを到達目標とする。

【履修注意】

- ・講義でWBT(e-text)を活用するため、必ずパソコンを持参する。
- ・自ら進んで意欲と熱意を持って経営組織論を学び、考える習慣を身につけてほしい

【評価方法】

- ・期末試験と中間まとめの結果を勘案して評価する(期末70%, 中間30%)。
- ・無断で5回以上欠席すると単位はとれない。

【試験について】

- ・期末試験と中間試験の実施。
- 再試験対象者の条件: 期末試験と中間試験を受験した卒業年次生で、中間・期末試験の合計が40%以上のものを対象者とする。

【予習・復習】

WBTで配信したe-textにより、予習、復習を行う。

【教科書】

- ・購入教科書なし。
- ・WBTでe-textを配信する。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

| 回数 | 項目 | 内容 |
|----|---------------|-------------------------------------|
| 1 | 組織論の視点 | 組織研究の進展と視点の変化, 本講義の構成 |
| 2 | 経営組織の特徴と基礎概念 | 組織の定義, 組織の編成原理, 組織の多様性 |
| 3 | 組織論の体系と伝統的組織論 | 組織論の系譜, テイラーシステム |
| 4 | 伝統的組織論と人間関係論 | ファヨール, ホーソン実験 |
| 5 | 近代的組織論 | バーナード, サイモン |
| 6 | 経営組織の構造 | 職能別, 事業部制, プロジェクト, マトリックス, 持株会社制組織等 |
| 7 | モチベーション論 | 動機付け・衛生要因理論, ポーターとローラーの期待値理論等 |
| 8 | 中間まとめ | 組織論の基礎と組織運営, 組織課題に対する諸施策のまとめ |
| 9 | リーダーシップ論(1) | 資質理論, ミシガン・オハイオ研究, マネジアルグリッド論, PM理論 |
| 10 | リーダーシップ論(2) | フィドラー, ハーシー&ブランチャード, 変革型理論 |
| 11 | 組織文化 | ディール&ケネディ, シャインの企業文化論, 企業文化の価値創造 |
| 12 | 組織学習 | シングルループ・ダブルループ学習, 個人学習から組織学習へ |
| 13 | 組織間学習 | 組織間学習とは, 資源パースペクティブ, 組織間関係論 |
| 14 | コンティンジェンシー理論 | コンティンジェンシー理論, その限界 |
| 15 | 経営戦略論 | アンソフ, ポーターの戦略論 |
| 16 | 期末試験 | 15コマの復習・確認・総まとめ |